

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 6 日現在

機関番号：12301

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2014

課題番号：23531158

研究課題名(和文) キャリア開発・予防職業生活問題教育の日仏比較とカリキュラム再構築

研究課題名(英文) Reconstruction of curriculum on career development and prevention problems on vocational life in France and Japan

研究代表者

上里 京子 (UESATO, Kyoko)

群馬大学・教育学部・教授

研究者番号：80202448

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：職業生活問題の解決と予防教育を行っているフランスの「予防・健康・環境」科のカリキュラムを分析した。プログラムにおいて、予防・健康・環境に関する知識 責任ある行動 市民の能力 批判的精神 分析過程と問題解決の過程を統合する方法論、を獲得することを教育目標として明示している。職業生活教育の内容は6つのモジュールから成り、教育方法として、帰納的学習過程から出発して演繹的学習を重視することが示されている。

教科書の各章は、状況分析 知識の動員 解決策の提案の順で展開され、医学や薬学等の専門的知識を活用しながら問題解決を図り、リアルな理解を深められる系統的なカリキュラム編成が大きな特徴である。

研究成果の概要(英文)：This study clarified the characteristic of curriculum on 'Prevention Health and Environment' who educate about solving and preventing problems on vocational life in France. Program stated as educational object that is to acquire, (1) knowledge relating to the preventive health and environment, (2) responsible behaviour, (3) citizen's ability, (4) critical mind, (5) methodologies to integrate the analytical and problem-solving processes. Educational contents of career education consist of six modules. Teaching method is that departing from the inductive learning process to emphasizing deductive learning.

Textbook chapters deployed by situation analysis knowledge mobilization suggesting solutions. And it is characterized by a systematic curriculum that is able to solve problem while taking advantage of the technical expertise such as medicine and human engineering, and to have a realistic understanding.

研究分野：家庭科教育学

キーワード：フランスの教育課程 キャリア準備教育 職業生活教育

1. 研究開始当初の背景

近年、日本の若者の職業意識と職業能力の低下、フリーターの増加や就業不安などの就業問題が社会問題とクローズアップしている。これらの就業問題や、将来の職業生活に起こることが予想される問題に対して、その解決と予防教育を実践しているフランスの「社会・職業生活」科の新カリキュラムと教科書を分析し、授業研究を行うことによって、具体的な教材論・教育実践レベルでの問題解決の方法と、予防職業生活問題教育カリキュラムの開発に示唆を得たいと考えた。

少子化や若者の労働意識の低下問題への対応の遅れが、国際競争力の低下となって現れたフランスの抱える課題は日本と類似した点が多く、「職業観・労働観、高度な職業能力形成」の対策には参考にすべき視点が多く含まれている。

2. 研究の目的

本研究は、若者の職業意識と職業能力の低下、フリーターの増加や就業不安などの就業問題や、将来の職業生活に起こることが予想される問題に対して、その解決と予防教育を実践しているフランスの「社会・職業生活」科の新カリキュラム(2009年以降漸次発行)と教科書を分析することによって、具体的な教材論・教育実践レベルでの問題解決の方法と、予防職業生活問題教育カリキュラムを開発することを目的とする。

また、フランスの「社会・職業生活」科教育の最新動向と教育効果を調査することによって、日本のキャリア教育に関する各種取り組みを一元化し、職業生活認識力と課題を解決しながら職業生活における持続可能な発達を可能とする問題解決力と予防力(市民生活リテラシー)を確実に身に付けるためのカリキュラムの再構築を試みる。

3. 研究の方法

(1) はじめに、日仏における教育課程論や職業教育・生活教育に関する文献・資料の収集、整理を進める。特に、2009年以降漸次公布されているフランスの「社会・職業生活」科の新学習指導要領と教師用指導書、教科書、教科課程に関する文献・資料を、フランス現地において調査・収集する。

(2) 日仏比較研究に不可欠な、キャリア教育、家政・生活教育、サイエンス教育、テクノロジー教育における基礎概念や Technical Term の内容や特徴を明らかにし、それらを比較可能にする研究方法論を検討する。

(3) キャリア開発・予防職業生活問題教育に関わる各教科の科学的概念、単元構成、学習方法を分析し、それらの特徴と教育課程改革

との関連、学力概念との関係に着目して日仏比較を行う。そのため、フランス人研究者、教科書執筆者、視学官、教育実践家との意見交換と資料収集、授業研究を行う。それらの調査結果をもとに、日本のキャリア開発・予防職業生活問題教育のモデルカリキュラムを構想する。

4. 研究成果

本研究の方法論に基づき、フランスの「予防・健康・環境」科におけるキャリア開発・予防職業生活問題教育のカリキュラムについて、プログラム(学習指導要領)と教科書の分析を通して考察した。

リセにおける「予防・健康・環境」科のプログラム(2009年)において、予防・健康・環境教育の目的は、個人および集団的予防の主導者を、予防・健康・環境に関する知識、自分の健康と環境に対して責任ある行動、自分と他者を尊重し、社会生活を成功させることができる社会および市民の能力、批判的精神を発達させることを目指す科学技術の教養、分析過程と問題解決の過程を統合する方法論、を獲得することによって育成することを明示している。また、これらを獲得するための科学的知識と能力目標、態度目標が具体的に示され、それらが関係づけられることによって、個人及び集団的予防の主導者を育成することを最終的な教育目的としている。

この教科の職業生活に関する教育内容は、職業における危険の予防、企業における予防に関する規則と枠組み、職業上の危険と予防の病態生理的影響、危険によるアプローチ(精神的負担による病態生理的影響、精神的負担に関連した危険の予防)、事故によるアプローチ(予防の過程で職業部門の事故分析を活用)から構成されている。

これらの教育内容は、12のモジュールから編成され、モジュールごとに、知識・能力・態度育成について系統的に示されている。

職業生活教育に関するモジュールは、7から12であり、モジュール7:危険の予防、7.1危険を伴う状況および取るべき行動を特定する、知識:様々なタイプの危険、能力:重大な危険、職業上の危険、家庭災害の危険を区別する、重大な危険を地域レベルで突き止める、育成される態度:他者に対する責任の自覚、遵守の感覚、目的の実現における、動機づけおよび決意、7.2騒音から身を守る、といった具体的な能力と態度の到達目標がマトリクスの形式で明示されている。

モジュール8から12は次の通りである。M8:職業部門における危険の予防(8.1労働活動における職業上の危険を突き止める。8.2危険によるアプローチを職業部門特有の危険にあてはめる。8.3事故が起きた場合に緊急事態を管理する。)M9:企業におけ

る予防の規則で定めた枠組み(9.1 予防の法的枠組みを理解する。9.2 企業における予防の主導者を特定する。9.3 予防機関を特定する。9.4 労働災害および職業病を区別する。M10: 職業上の危険と予防の病態生理的影響(10.1 化学的危険を予防する。10.2 身体活動に関わる危険を予防する。M11: 危険によるアプローチ(11.1 精神的負担による病態生理的影響を決定する。11.2 精神的負担に関連した危険の予防: 労働によるアプローチ) M12: 事故によるアプローチ(予防の過程における職業部門の事故分析を用いる。事実の収集、原因の枝分かれ図の構築、この種の事故の予防の実施、関連する事故への予防の拡大)

教授学習過程と教育方法については、次のように示されている。

社会または職業生活の具体的な状況に基づく活動主義の教育方法は、特に情報通信技術を利用することを重視する。職業教育修了証書および職業第2学年については、今日的な出来事、個人的経験から生じた状況が、帰納的過程の出発点となる。この過程は、特に、問題解決の方法論を拠り所とする。第1学年および最終学年における教育法は、演繹的進め方を受け入れ、特に、職場での職業教育期間において観察された状況をはじめとする状況の分析へと導く。知識、能力、態度の獲得によって、予防・健康・環境教育は、その他の教育と関連しながら自立した責任ある個人の育成に寄与する。

教授・学習過程においては、社会の具体的な状況に基づく活動主義の教育方法を重視している。第2学年での帰納的学習過程から出発し、問題解決の方法論を用いながら、第1及び最終学年で演繹的学習過程を重視し、特に、職業教育期間に観察された状況分析を指導することを明示している。

教科書 *Prévention Santé Environnement* (Foucher 発行 2010年)を分析した結果、5章労働活動における職業的リスク(モジュール8)、15章労働災害および職業病に関する手続きと費用(M9)、16章化学的リスク(M10)、17章荷扱いと背中(M10)、18章筋骨格障害、19章人間工学的アプローチ(M11)、21章労働災害の分析(M12)が職業生活教育に関する章であり、プログラム(学習指導要領)にあるモジュールと学習目標が示されている。

各章は、「状況分析」「知識の動員」「解決策の提案」の順で学習活動が示され、それぞれの学習活動で学ぶ複数の具体的な教材と文書やデータ、メモ、学習課題があげられている。それらは現在及び将来の職業生活に役立つ現実的な知識であるとともに、医学・薬学・化学・物理学・環境科学・人間工学・社会学・政治学・社会福祉学などの高度な専門的知識が中心である。現実の社会生活

の状況分析といった帰納的な学習と、専門的な知識と理論を学んで批判的分析力の錬磨を目指す演繹的な学習を接続し、現実の生活場面で、高度な専門的知識を活用しながら問題解決を図り、リアルな理解を深めるといった教育方法が採られている。また、そのような帰納と演繹を接続して繰り返す学習を進められるように、教育内容が系統性に編まれている。

結論として、プログラムには能力目標と態度目標、教育方法が具体的かつ構造的に示され、教科書はこのプログラムに忠実に編纂されており、予防の主導者を育成するという教育目的を確実に達成できるように系統づけられている点が、フランスの予防職業生活教育の大きな特徴である。

分散型の進路指導が中心である日本のキャリア教育の再構築に、このカリキュラムの枠組みやコンピテンシーの内容などを活かしていくことが望まれよう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 1件)

上里京子「教育事情の日仏比較 生活の教育」、フランス教育学会紀要 第26号、査読あり、2014年、pp.143-144

[学会発表](計 0件)

[図書](計 2件)

上里京子「家庭科の歩み」、中間美砂子他編著「中学校・高等学校家庭科指導法」、建帛社、2011年、pp.25-42

上里京子「家庭・福祉教育」、「技術・家庭科の理論」、『産業教育・職業教育学ハンドブック』、大学教育出版、2013年、pp.56-58, pp.19-21

[産業財産権]
出願状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：

種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

上里京子 (UESATO, Kyoko)
群馬大学・教育学部・教授
研究者番号：80202448

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：